

隊指導者用

隊・団が取り組む災害教育プログラムヒント集

日本ボーイスカウト千葉県連盟

隊・団が取り組む災害教育プログラムヒント集

目 次

隊・団が取り組む災害教育プログラムヒント集について……………	2
ビーバースカウト部門……………	3
カブスカウト部門……………	5
ボーイスカウト部門……………	7
ベンチャースカウト部門……………	10
ローバースカウト部門……………	11
ボーイスカウト日本連盟	
隊・団が取り組む災害教育プログラムヒント ……………	12
隊活動ヒント「ビーバースカウト隊」……………	13
隊活動ヒント「カブスカウト隊」……………	15
隊活動ヒント「ボーイスカウト隊」……………	18
隊活動ヒント「ベンチャースカウト隊」……………	21

平成14年 1月 1日 初版
平成16年 6月 1日 改訂
平成25年 1月 12日 改訂

隊・団が取り組む災害教育プログラムヒント集

平成7年1月に発生しました阪神・淡路大震災、平成23年3月に発生しました東日本大震災は被災地から届く映像では、生活の記憶が失われ、瓦礫の山、無表情の冷たい平面が広がっていました。一瞬にして全てが失われた悲しみは、今なお続いています。

震災復興の過程で、緊急物資が必要とされ、義捐金、支援金も支給されていますが、被災地の皆様が、社会との関係を絶たれる危機は、計り知れない精神的な痛みも伴っていることと推察できます。

東日本大震災では、私たち千葉県連盟のスカウトは、何より大事な事は、スカウトとして出来る事を考え、そして実行することであり、それがスカウト精神の発揮であり、「ちかい」と「おきて」の実践です。

東日本大震災では、大勢のスカウト諸君が街頭に立ち募金活動をして下さいました。また、被災地にとんでボランティアをしていただいたローバースカウト、指導者の皆様も沢山います。

募金活動では震災後1年の募金総額は1600万円を上回りました。県連盟スカウト諸君のスカウトスピリットの賜物であり、心より感謝申し上げます。

さて、千葉県連盟では毎年4月の第2日曜日に「災害教育・支援体制マニュアル」に基づき「災害準備大作戦」を各地区持ち回りで開催してきましたが、この度、新たに同日を「千葉・そなえよつねに・災害準備の日」とし、県下一斉に災害教育活動を展開することになりました。

発災時や発災後、身近で支援活動などの働きができるのは小中学生であり、カブスカウトやボーイスカウトでもあります。

そこで「災害教育」を普段の隊活動、特に4月の第2日曜日に取り込んで下さい。

従来のマニュアルを「災害教育」と「災害支援」の二本立てに分離しました。災害教育には、この「災害教育マニュアル」を参考として頂けますようお願いいたします。

なお、後半の教育マニュアルは日本連盟の「隊・団が取り組む災害教育プログラムヒント」を転載させていただいています。(是非活用ください)

平成25年1月12日

ビーバースカウト部門

ビーバースカウト部門における災害準備教育は、意識しないまでもすでにプログラムの要素として各隊とも取り上げてきたことと思います。それらを観点を変えて改めて見直してみてください。そしてはっきりとした目標を掲げて、段階的に取り上げてください。普段の隊集会のほんの少しの時間を割くだけで立派な災害準備教育になるはずです。以下を参考に目の前のあなたの隊のスカウトにふさわしい、楽しいゲームにしてください。

1. せいかつ (生活)

[あなたはだあれ?]

活動の目標

非常事態にも慌てずに、自分の情報ははっきりと伝えられる。

- ・普段はきはきしていても、非常事態には慌ててしまって、自分の情報を伝えられないことも考えられます。どんな時にも自分の情報をそばにいる大人に伝えられるようにしたいものです。

活動の概要

家族以外の人への質問に答えることができる。自分の氏名・年齢・住所・電話番号等を他人に伝えられる。保護者の氏名を他人に伝えられる。

★木の葉章：せいかつ②あいさつをする。⑥はいと、いいえが、はっきりいえる。

[かたづけよう]

活動の目標

身の回りをいつもきちんと片付けて非常事態に備える気持ちを育てる。

- ・自分の持ち物がかたづいていれば非常事態にも慌てずに済みます。必要なものも容易に持ち出せます。そんな観点からも「整理整頓」について考えさせましょう。

活動の概要

自分の持ち物を把握する。片付け方を工夫する。

★木の葉章：せいかつ⑧みのまわりを、いつもきちんと、かたづけておく。

[大きくなった]

活動の目標

幼いものや弱いものに対して愛情をもって接することができる。

- ・他人を思いやる気持ちは、自分を愛することから始まります。まず愛されている実感をもたせてから、周囲に目を向けさせましょう。
- ・命の尊厳を知らせることは大事な活動です。

活動の概要

野外で遊ぶ。弟妹達と一緒に遊ぶ。植物や動物の世話をする。役に立つ仕事を家庭の中で引き受けて、継続的に実行する。

★木の葉章：せいかつ④おさないものや、よわいものには、しんせつにする。

③たい、くみ、うちで、しごとをすすんでする。

しぜん ①花や、やさいなどを、そだてる。

⑤ピクニックやたんけん、出かける。

しゃかい④みんなのためになることをする。

2. けんこう（健康）

[元気なビーバー]

活動の目標

自分の健康を自分で守ることができる。

・非常事態にも対応できる気力・体力は、健康な体から生まれます。

活動の概要

食べ物の役割を知る。おいしく食べる。運動をする。清潔について知り、実行する。

★木の葉章：けんこう：②たべものの、すききらいを、なくすようにする。

③うんどうをする。

⑦て、あし、からだなどのせいけつに気をつける。

3. しゃかい（社会）

[探検しよう]

活動の目標

災害に備えて、避難場所を知り実際に行くことができる。

・災害が起きたときいつも家族やおとなと一緒にいるとは限りません。自分のすむ地域を把握し、避難場所を確認しておく事が大切です。

活動の概要

通園路や通学路を決め、ひとりで歩いてみる。広域指定避難場所を調べて行ってみる。

災害時の対処について家族と話し合い約束をする。

★木の葉章：しゃかい⑥こうつうの、きまりをまもる。

せいかつ⑦いえのきまりをまもる。

[体験しよう]

活動の目標

防災センター等を見学し体験学習をする。

・近くの施設を見学し、みんなのために働く人々を知るとともに体験する事によって学ぶことはなによりも大切です。

活動の概要

防災センター・消防署・警察署等を見学する。自治会や地域の防災訓練を見学したり、可能ならば参加する。

★木の葉章：しゃかい①ちかくの、こうじょうやはくぶつかんなどを、けんがくする。

③みんなのために、はたらく人たちのことが、わかる。

カブスカウト部門

カブスカウト部門では、それぞれの課程で若干の差はあるものの、災害に備えての活動がカブブックに取り上げられています。ことにチャレンジ章では、社会生活の分野に「災害救助員」が、また技術の分野に「救急博士」が設定されています。

是非、隊集会の中でも災害に備えてスカウト達が行うべきこと、できることについて考え、取り組むようなプログラムを取り入れてください。

カブ隊のさだめを守り実行することは、そのひとつひとつが実は災害準備教育にも通ずるものです。社会の一員としての自覚と責任とを育てていくために大切なことがらばかりです。改めて見直し、ご指導くださいますようお願いいたします。

1. カブスカウト部門の災害教育体制における目的と目標

- ※ 災害発生時にも慌てずに行動できるよう、普段から年代に応じた準備教育を進める。
- ※ カブスカウト課程の3年間を通じて、「災害救助員」と「救急博士」に段階的に取り組みそれぞれのチャレンジ章を修得するよう努力する。

2. プログラムヒント

[信仰とたしなみ]

(1) 元気なあいさつ

- ・身近な人に大きな声であいさつできるということは、見方を変えると『顔をおぼえてもらえる』ということになります。つまり、なにかあったら思い出してもらえる、心配してもらえる、親身になってもらえるということです。

★うさぎ 1笑顔(2)

[健康と安全]

(1) 救急法を取り入れたゲームや追跡ハイキング

- ・救急法といってもカブスカウトの場合、自分達がやることは簡単な擦り傷や切り傷の処置まで。なによりも大切なのは「おとなに知らせる」「おとなを呼んでくる」ことができることです。あとは、「知る」の段階です。
- ・チャレンジ章3-9救急博士も一回だけでなく何回も取り組みのチャンスをつくる。

(2) 見学

- ・消防署や警察署、防災センター等を見学する。または、自治会や地域の防災訓練を見学したり可能ならば家族と共に参加する。

(3) 伝言ゲーム

- ・事故や火事、急病等を想定して電話をかける練習をする。
救急法と同様、まずはおとなに知らせることが基本ですが、自分で電話をかけなければならないときもあります。

(4) 家族といっしょに家の内外の安全点検

- ・屋内の整理整頓は非常時の備えに通じます。また、電気器具やガス器具を正しく使えるようにしておくことも大切な安全教育です。消火器の種類や使い方も知る。

(5) 食べ物調べ

- ・非常事態にも対応できる気力・体力は健康な体あつてのものということを理解させ何よりも

バランスよく食べることの大切さを理解させる。

- ・組集会から隊集会へとつながる絶好の素材になります。
- ・発展させれば野外調理にもつながります。

★うさぎ 4せいけつ、1笑顔(1)

★しか 3事故の予防、4健康、10料理、1感謝

★くま 2成長、3事故への対応、4救急、9自然と生活、10炊事

★チャレンジ 3-9救急博士、1-7手伝い、5-4料理家、1-8災害救助員2・3

[社会生活]

(1)わたしの町：探検・絵地図作り・地図記号ゲーム・案内ゲームなど

- ・自分の住む町を探検し、公共施設や広域避難場所を確認し実際に歩いてみる。また、通学路を決めて家族とも確認しておくことは非常時に備える意味からも大切です。
- ・保護者も含めた組集会にするとたくさんの発見があります。

(2)仕事調べ

- ・自分達の生活が、昼夜の別なく働く人々によって守られていることを知り、自分に何ができ、またすべきかを考えさせ、実行させる。
- ・これは健康と安全の分野で提案した「見学」とも重なるテーマです。

★うさぎ 13わたしの町、15わたしの仕事

★しか 5地図、15役に立つ

★くま 15奉仕

★チャレンジ 1-2市民2・4、1-5案内1・3・4、1-8災害救助員1

ボーイスカウト部門

千葉県連盟では「そなえよつねに」の心構えを具現化すべく災害教育体制を推進しております。

ことにボーイスカウト部門においては、はっきりとした認識のもと災害支援に対してその一翼を担えるよう指導していきたいものです。「ちかい」と「おきて」の実践により「日日の善行」を実践する好機としてとらえ、スカウトが自ら行動に移せるような心の準備と技能を養う活動を期待します。

創始者ベーデン・パウエルは『Scouting for Boys』のなかで、災害（事故）についてスカウトとしての心構えを書き記しています。キャンプファイヤー物語 23 では「人命救助」の内容で事故に備えることやあらかじめ考えていくことの重要性やスカウトにできること、義務を果たすことについて述べています。またキャンプファイヤー物語 24 では「事故とその対策」で、パニック・火事・溺死等の対処についての心構えを述べています。その中で、人命救助の班練習や火災救助のゲーム等の実際についてプログラムヒントの形で残されていることには目をみはるものがあります。心構えやスピリットは、スカウト運動が100年を経過した現在においても不変であるといえます。

いま我々指導者に必要なことはプログラムを時代の変化に対応できるように進化をさせていくことです。

この災害教育支援体制が進められる中で、ベーデン・パウエルの精神を継承し現代の社会性とマッチしたプログラムが展開できるように、ヒントの一部を以下に紹介します。

1. ボーイスカウト部門の災害教育体制におけると目的と目標

- ※ 災害発生時に、自分のことは勿論、家庭や学校・地域においてリーダーシップを持って行動できるように普段から班、隊活動で備える。
- ※ 千葉県連盟が取り組んでいる災害教育体制の推進を機に、ボーイ部門の2級スカウトは、防災のターゲットバッジの取得、1級スカウトは防災のマスターバッジの取得を目標として活動しましょう。
 - ・2級 5. 社会生活の(1)「社会生活」の活動からターゲットバッジを1つ修得する。の取得バッジ「防災」を取得するよう努力する。
 - ・1級 6. マスターバッジを2つ修得する。の1つとして努力する。

2. プログラムヒント

(1) 隊長の話やヤーン・スカウトズタウンサービスのなかで

- ① Scouting for Boys の内容の中から
「あらかじめよく考えておく」鉄道ホーム転落救出の話題（平成12年第19版P368）等を参考にしてください。
- ② 関東大震災でのスカウトが活躍した話
指導者講習会ビデオ「まんが始めて物語」等を参考にしてください
- ③ 善行スカウトの話
身近なスカウトの善行行為の紹介等
- ④ その他
新聞記事・ニュースを参考にする・身近な関連の話題等

(2) 隊・班活動のなかで

- ① 災害遭遇を想定してのテントなしの一泊キャンプ（生活資材使用：段ボール・廃材等）
★ターゲットバッジ（以下略）のF群 スカウト技能・冒険 サバイバルF3-6
- ② 通信機関の不能を想定しての伝令ゲーム

- ★D群 スカウト技能・追跡 通信 D3-1・D3-6 の応用
- ③ 近隣の地域の地震被害を想定して被害状況報告ゲーム・ハイキング
 例：実在の〇〇ビルのガラスが割れて飛散した・バルコニーの植木鉢が落ちた等を 想定して模擬の被害報告書を作成する。
 ・予測と観察・危険予知トレーニングの一環として
- ④ 救急法講習会参加
 ★B群 救護 B5
- ⑤ 救急法を使用した班対抗ゲーム
 ★B群 健康と発達 救護 B5-1・B5-3 の応用
- ⑥ サバイバル火起こし（マッチ・ライターを使用しない）
 ★F群 スカウト技能・冒険 サバイバル F3-2
- ⑦ 非常食と非常袋の作成
 ★F群 スカウト技能・冒険 サバイバル F3-5 の応用
- ⑧ 避難を想定した非常食のみの1泊ハイキング
 ★F群 スカウト技能・冒険 サバイバル F3-3 の応用
- ⑨ 火災予防のパトロール
 ★G群 社会生活 防災 G6-6
- ⑩ 地域防災施設見学
 ★G群 社会生活 防災 G6-6 の応用
- ⑪ 1日消防団体体験入隊
 ★G群 社会生活 防災 G6-6 の応用
- ⑫ 消火栓探しハイキング
 ★G群 社会生活 ガイド G8-1 の応用
- ⑬ 地域の危険箇所マップの作成
 ★G群 社会生活 ガイド G8-6 の応用
- ⑭ 街角でガス漏れを発見したことを想定してその処置を班で話し合い結果を隊長に報告し指導を受ける
 ★G群 社会生活 防災 G6-4
- ⑮ 班集会の往復時火事と思われる状況を発見した事を想定して確認方法や連絡方法を実演し班で互いに評価をする。
 ★G群 社会生活 防災 G6-5
- ⑯ 地震が起きた直後、2分後、10分後にそれぞれどうすれば良いかを、家庭（昼、夜、）学校、班・隊集会に分けて班集会で話し合い、隊長の指導を受ける。
 ★G群 社会生活 防災 G6-1、G6-2 の応用
- (3) 家庭で
- ① 避難場所の話し合いをする。
 ★G群 社会生活 防災 G6-1・G6-2
- ② 災害時の危険箇所を点検する。（家具の固定・消火器の点検・火気器具の点検）
 ★G群 社会生活 防災 G6-1・G6-2・G6-3 の応用
- ③ 非常袋の点検をする。
 ★G群 社会生活 防災 G6-1 ★F群 スカウト技能・冒険 サバイバル F3-5 の応用

- ④ 自宅のガスの配管、元栓の位置を確認し、ガス漏れを発見した場合の処置を実演する。
★G群 社会生活 防災 G6-4
- ⑤ 家で火災が発生した場合を想定して、消防署への連絡方法、出火場所による脱出方法を家族で話し合う。
★G群 社会生活 防災 G6-5

指導者の応用で災害、防災に関連したたくさんのプログラムが展開できると思います。地区のラウンドテーブル等でリーダーどうしが互いに研究をして、地域やスカウトにマッチしたプログラムを企画、展開をしてください。

ベンチャースカウト部門

ベンチャースカウトの活動目標のひとつには、自ら計画したプロジェクトを達成し、奉仕の精神を身につけ、地域社会に対する奉仕に努めることがあります。

ベンチャースカウトの活動を通して、スカウト個人としてのベンチャー章、富士章への進級も重要なことでありますが、加えて地域社会への奉仕ができるように心身両面での成長が期待されています。このことはベンチャースカウト活動の目標としても掲げられております。

ベンチャースカウトの進歩課程においては、チームでのプロジェクト活動、個人プロジェクト活動を遂行する事により、体験を通してプログラムプロセスを理解し、そのプロジェクトに必要な技能を習得することにより技能章の取得につながり、またプロジェクトアワードの取得ができ、結果として進級へとつながります。

プロジェクトアワードの8つの分野のひとつに「奉仕活動」の分野があります。ベンチャースカウト年代で「奉仕」を前面に出した活動の取り込みは難しいものですが、この災害教育支援プロジェクトが大変よい素材に出来ます。スカウト活動の目的をご理解頂き、スカウトたちへの提案、指導をお願いします。奉仕は、ビーバースカウト、カブスカウト或いはボーイスカウトからのスカウト活動で培ってきた技能、或いは精神をもって、その準備・訓練をする事、「ちかい」の「いつも他の人々を助けます。」を実践することと考えられます。

1. プロジェクトアワード・個人プロジェクトとして取り組む

①各スカウトが災害支援プログラムを個人プロジェクトとして取り組むよう指導をする。

災害支援プログラムはベンチャースカウトがアワードとして取り組むのに絶好の材料です。間口も広く、そこからたくさんの材料が拾えます。また取り組みによって、スカウトには災害に備える目・心を養う事ができます。

②技能章へ結び付けて取得を進める

カブスカウト部門では災害救助員チャレンジ章、ボーイスカウト部門では防災のターゲットバッジが制定されています。技能章には、現在これに直接類するものはありませんが、災害支援にかかわる事のできる技能を取得できる技能章は多くあります。安全にテントを張る事(野営章)、支援場所のサイト管理ができる事(野営管理章)、多人数の野外炊飯ができる事(炊事章)、救急、看護、消防、安全これらはそのまま技能章があります。また被災地の環境衛生にかかわる事(環境衛生章)、自転車のパンク修理ができる事(自転車章)、信号、通信に関する事(信号章)、等々、場面によっては通訳も重要な技能になります。ベンチャースカウト達が持っている技能がそのまま災害支援に役に立てる事ができます。災害支援に関するプロジェクトの中でこれら必要な技能を習得し、アワードも取得し、さらに技能章も取得できるように指導下さい。

以上、ベンチャースカウトが「災害教育支援プロジェクト」に対する取組の考えと具体的ヒントを述べてきました。本文でも触れましたが本プロジェクトの中心はベンチャースカウトです。

ビーバースカウト、カブスカウト、そしてボーイスカウトと活動を続けてベンチャーに上進したスカウトが、団・隊でのプログラムの企画、指導をすることで、災害教育の実が結ばれます。次にローバースカウト、あるいは成人指導者としてさらに本プロジェクトを進める。あるいは、災害支援に対する実際の災害に備える、支援をする目・心を持った一社会人として成長することが期待できます。

まさにこのことが「災害教育支援プロジェクト」の重要な教育的価値です。また県連盟、地区、各行政と地域根ざした活動として定着する鍵です。

ローバースカウト部門

ローバースカウト活動の目標のひとつに奉仕活動があります。奉仕活動を大きく捉えると次のことが考えられます。

- ①ビーバー隊、カブ隊、ボーイ隊、ベンチャー隊の訓練指導に協力、奉仕する。
- ②地域社会への認識を深め、地域の向上に貢献する。
- ③国際社会の一員として、相互理解に努めると共に国際社会の向上に貢献する。

などが考えられ、特にローバースカウト活動にとって奉仕活動は重要な意味を持つものであります。

今までのスカウト活動で培ってきた能力をさらに向上させて体力、技能、能力に応じた奉仕活動を実践していくことを指導者・アドバイザー各位から奨励願います。

1. 災害支援プログラムへ参加する方法

スカウト運動の指導者としての奉仕

指導者(補助者)として奉仕している部門プログラムを通じて参加する。

人に何かを教えることは、本人を大きく成長させるものです。ローバースカウトが、他部門の指導者、インストラクターとして、災害、或いは防災に関する技能・知識を指導することは、重要なことです。教えられるスカウトにとっても、教えるローバースカウトにとっても災害に備える理解が大きく進展します。

2. ローバースカウト活動のひとつのプロジェクトとして取り組む

奉仕活動は相手が必要とした時に即応することが大切です。そのためには技能、知識、心構えを常に高めておく必要があります。

具体的には

- ① 各自で個人プロジェクトとして取り組むよう指導を、お願いします。

自分を分析し、自分の技能、知識を確認して、持てる技能、知識を高める為にプロジェクトを企画し実行することを奨励願います。

また、必要であるが不足している点を補うプロジェクトもまた実行して、ローバースカウトとして「そなえよつねに」を実践できる準備を整えることの指導も重要です。

- ② 仲間と集い、ローバーのプロジェクトとして実践する事を勧めます。

ローバースカウトが、自分を磨き、自覚し、心構えが醸成されたときには、何かしら、実践したい欲求が湧いてくるものです。

そのときこそ、指導者の重要性が問われる時です。そのときを捉えて隊のローバースカウトを集め、あるいは地区内のローバースカウトに声を掛けて、スカウトにプロジェクトとして課題を示して活動を促してください。日本国内にも、或いは世界各地でも、ローバースカウト年代の力を求めている処がたくさんあります。

ローバースカウト活動を充実させ、他の人のために役立つ喜びを多く体験させることが、スカウト自身にも隊・団・地区・県連盟そして地域の発展にもつながることになるのです。

公益財団法人 ボーイスカウト日本連盟 隊・団が取り組む災害教育プログラム

ビーバースカウト隊からベンチャースカウト隊までの隊活動ヒント項目と関連すると思われる進歩課目、選択課目、ターゲットバッジ、マスターバッジや技能章を掲載していますが、それぞれの章が必ず取得できるとは限りません。実際の活動内容に照らし合わせてスカウトに授与してください。なお、この災害教育の取り組みは、日本連盟の90周年を契機としておりますが、必要なことですので、今後も継続して魅力あるプログラムを展開してください。

隊活動ヒント「ビーバースカウト隊」	13
隊活動ヒント「カブスカウト隊」	15
隊活動ヒント「ボーイスカウト隊」	18
隊活動ヒント「ベンチャースカウト隊」	21

隊活動ヒント「ビーバースカウト隊」

テーマ	災害から身を守る、どんな災害があるかな？、自分ができる防災、災害の恐ろしさ、安全な生活のために、命をたいせつにしよう、みんなに伝えよう。「たいへんだ！○○○だー！」
スカウトの教育	隊や家庭において 自然に親しむ、基本的な生活技能を身につける、社会性を伸ばす
活動の目標	10項目を目標とする
災害の分野	地震、火事、風水害、雪害、津波
	お話 <ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土や国内外の災害の実話 ・ 自然災害のいろいろ ・ 被災者の話を聞く ・ 防災専門家から災害の話を聞く ・ 防災専門家から災害を防ぐ方法を聞く ・ 「防災の日」ってなあに？ ・ 災害活動のボランティアたち(体験談やエピソードなど)
	発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害に遭ったことを聞く（スカウト、指導者、保護者から）
プログラム	実践
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視聴覚教材を利用して危険予知トレーニング（KYT）による学習をする（間違いやおかしなところを見つける）
	訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者の指示に従って、規律正しく避難できるように心がける
	話し合い <ul style="list-style-type: none"> ・ 火事、地震、水害など災害の種類を選んで、その災害の恐ろしさや防ぐ方法などについて自由に話し合っ防災教育に導く ・ 実際に体験した災害の話を発表する
	家庭学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族や近所の人から、災害の話を聞く ・ 災害に遭ったらどうしよう！！ (家庭、保険所、幼稚園、学校、街中、乗り物内など)
関連進歩課目	生活－3・4・5・7・8、健康－2・3・4・7、自然－2・4・5・7、
「木の葉章」	社会－1・3・4・5・6・7、表現－4・6・7・8・9
ソング	そなえよつねに、大きな歌、世界はひとつ、幸せなら手をたたこう、一人の手など
ゲーム	鬼ごっこあそび、電車ごっこ、りすの宿探し、数あつまり、非常時の携行品あつめ（カード拾い）など
参考図書・資料	郷土の災害史、市町村広報誌、「スカウティング誌」など

《ゲームのポイント説明》

● 鬼ごっこあそび

鬼役、追いかけて役にあまり体力的なハードな負担をかけないように、いろいろな鬼ごっこを工夫して、安全に留意しながら、判断力、順応力、俊敏性を養う。

● 電車ごっこ

仲間と協力し合って、行動力、俊敏性を養う。

● リスの宿探し

3人一組となり、2人が両手を取り（樹木役）1人がその中に入り（リス役）となる。リーダーが「雨が降ってきた」と叫ぶと、リスは他の樹木を求めて移動する。「風が強い」と叫ぶと、樹木役の2人が手をとったまま、他のリスに移動して中に入れる。「嵐が来た」と叫ぶリス役、樹木役の全員が、他所に移動して3人1組となる。3人以外に1人、または2人がいて、完全に3人1組に移動することで優劣をつけるのも良い。

● 数あつまれ

リーダーの拍手数により、早く人数が集まる。または、動物名（複数種類でも良い）を呼んでその動物の手足数の人数が集まり、できたらすばやく円陣に座らせる。3～4回、数を変えて行う。判断力、行動力を養う。

隊活動ヒント「カブスカウト隊」

テーマ	<p>自然災害の種類と特色、日常の安全な暮らしを考える、我が家の防災、私にできる防災の心得、私たちにできる災害活動、災害時における、とっさの判断と行動、たいへんだ！！</p> <p>早くみんなに知らせよう！！</p>
スカウトの訓育	組・隊や家庭、近隣社会において、良い社会人としての基本を習得する
活動の目標	12項目を目標とする
災害の分野	<p>震災、火災、風水害、雪害、津波</p> <p>お 話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 官公庁職員から災害の実態を知る ・ 被災者の体験談を聞く ・ 災害のいろいろと思いやり活動 ・ 緊急、地震情報、警報などの報道を学ぶ ・ いつでも、どこでも便利な携帯ラジオのニュース ・ 私の考える「防災グッズ」 ・ 防災標語作品発表会（火災、地震、水難予防など） ・ 災害時に活動した人々（体験談や実話） <p>お 話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災ポスター（絵画）作品展 ・ 私の考える「防災グッズ」 ・ 防災標語の作品発表会 <p>発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災ポスター（絵画）作品展 ・ わたしの考える「防災グッズ」 ・ 防災標語の作品発表会
プログラム	実践
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私の家庭周辺の防災マップを作ろう（組毎） ・ 街中で防災グッズを見つけよう（デパート、商店街など） ・ 視聴覚教材を用いて KYT 法による学習をする ・ 災害に備えて応急手当を学ぶ <p>見学と学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消防署：消防車、救急車などの機能を知り、災害発生時の活動体制と隊員の活躍、わが町や全国の災害状況を知る ・ 警察署：災害発生時の体験活動と警察職員の活躍、災害を防ぐ心構えを学ぶ ・ 赤十字社支部：災害活動のお話、人命救助法、避難活動体験 <p>家庭学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族と一緒に我が家の防災を考える。火事、地震、台風、水害、雪害、津波など災害分野を指定して計画を作る。纏めたものを隊集会で発表する ・ 防災標語づくり：火災、地震、水難など ・ 我が家の防災安全チェック（電気、ガス、家財など）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の避難所を知る(マップづくり) ・ 考えよう、家庭用救急箱の中身に備えるもの 話し合い ・ みんなで考えよう「災害時の悲劇を無くすためには」
進歩課目	うさぎ:(2)健康と安全 イ安全・ウ清潔、(3)技能と野外活動 ア計測・イなわ結び・カ食事、(4)社会生活 イわたしの町 エわたしの生活 し か(2)健康と安全 イ自己の予防 (3)技能と野外活動 ア地図 イなわ結び ウ工作 カ料理(4)社会生活 イくらしのマナー エ役に立つ
選択科目	く ま:(2)健康と安全 イ事故への対応 ウ救急 (3)技能と野外活動 イなわ結び オ自然と生活 カ炊事 キ野外活動 4)社会生活 イ生活と環境 エ奉仕
(チャレンジ章)	1 社会生活:(2)市民 (3)友情 (5)案内 (7)手伝い (8)災害救助員 2 自然と野外活動:(3)ハイカー (4)キャンパー (7)探検家 3 技術:(4)工作博士 (5)通信博士 (6)修理博士 (7)乗り物博士 (8)救急博士 (10)特技博士 4 スポーツ:(1)水泳選手 (4)スキー選手 5 文化・趣味:(4)料理家 (6)旅行家
ソング	そなえよつねに、スカウトたちよ、岩をぶっちわり、小さな世界、一人の手など
ゲーム	手旗短旗交信、水バケツリレー、短文伝言リレー、ロープ結び(11種)ゲーム コンパス進行、偵察ゲーム、追跡ハイク、水底浮上 など
参考資料・図書	スカウティング誌、消防白書(総理府)、地方自治体広報誌、救急法、防災副読本 「3. 11を忘れないで(小学校版)」東京都教育委員会

《ゲームのポイント説明》

● 手旗単旗信号

簡単な文字を単旗でカタカナ文字が読めるように発信する。(相手が読みにくい) または、逆文字に発信する(相手が判読しやすいので、年少向きである)

● 水バケツリレー

バケツに水を入れ、目標物を折り返し早回りして仲間に受け継ぐ組対抗とする。または、広い場所であれば、ある一定の距離を組員全員がリレー競争とする。

● 短文伝言リレー

リーダーが各組の1番手に短文を見せて、その内容を2番手に伝え、次から次へとリレーして、組の最後のスカウトが伝言を受け止める。速さと正確さを競う。組員の感覚は、他に話し声が聞こえない程度の距離にする。

● ロープ結び(11)種

スカウティング誌 No. 682 (2011年3月号) 参照

生活に役立つ基本的な結びを結びの名称、用途、結び方を正しく修得させる。

- コンパス進行・偵察ゲーム・追跡ハイク

スカウティング誌 No. 682 (2011年3月号) 参照

- 水底物浮上

背丈より深い水底にある小物を、水上に拾い上げる。潜水で活動できるようにする。

隊活動ヒント「ボーイスカウト隊」

テーマ	地域の防災活動を考える、防災対策を考える（災害の分野別に）、被災地への救援の方法
スカウトの訓育	班・隊の活動において、事故の責任を果たす。野外活動の体験学習を通し、良き社会人になるための資質の向上をはかる
活動の目標	13項目を目標とする
災害の分野	震災、火災、津波、風水害、雪害、原子力災害 講話 ・ 被災者の体験談を聞く ・ わが国の災害史に学ぶ ・ 世界の災害史に学ぶ 発表・討議 ・ 町の危険場所の発見と安全対策 防災訓練
プログラム 内容	・ 地域の防災訓練に参加する ・ 地域の防災講演などに参加する ・ 野外の不便な場所での衣食住の生き方技能の習熟 ・ 煙に巻かれて、室内脱出法 ・ 緊急災害情報の知識と実践活動（テレビ、ラジオ、携帯電話、地域の公共放送等） 実践 ・ 災害時の通信方法（手旗交信など）を体得する ・ 人命救助のための救急法（三角巾の使用法、包帯法、運搬法など）を体得する ・ 身近にあるもので即席の包帯法、運搬法を考える ・ 地域の防災マップを班や隊で作成する ・ 救急法の講習会受講（理論と実技・新聞などの広告やチラシから防災グッズの発見） ・ 即製「水の浄化法を学ぶ」 ・ これは便利、防災グッズを考えよう ・ 着衣のままの泳法実習 ・ 災害時の緊急連絡網づくり ・ 災害時における節水、節電、防暑、防寒、食糧確保などの工夫 ・ 避難対策のグッド・アイディア 救援活動 ・ 街頭募金活動 ・ 救援物資援助活動 ・ 被災地の子供たちとの交流 ・ 被災地の高齢者の身の回りお世話などの交流 見学と実習 ・ 消防署：最新の防火法（理論と実践）、救急法と人名救助活動の実際 ・ 自衛隊：サバイバル体験と防災活動の体験

	・ 赤十字社：防災の広報、防災活動を学ぶ
選択課目	A スカウト精神：A3 地域社会、A7 地球市民 B 健康と発達：B3 水泳、B5 救護
(ターゲットバッジ)	D スカウト技能追跡：D2 計測、D3 通信、D6 気象観測
(マスターバッジ)	E スカウト技能キャンピング：E1～7 F スカウト技能冒険：F1 食料、F3 サバイバル、F4 フイッシング、F6 ウォーターアドベンチャー G 社会生活：G3 近隣奉仕、G6 防災
関連する 技能章	野営章、野営管理章、炊事章、救急章、介護章、看護章、安全章も環境衛生章、事務章 消防章、信号章、無線通信章、ラジオ章、水泳章、溺者救助章、漕艇章、沿岸観察章、測候章、登山章など
ソング	そなえよつねに、スカウト達よ、僕らのスカウティング、手旗信号、ぶらぶら沢、10種野営料理法、リュックサックの歌、永遠のスカウト など
ゲーム	火起こしリレー、湯沸し競争、手旗交信、目隠しロープ結び、海猿の潜水時間、急造担架作り、信号送り、高さは？長さは？1分時計、止血リレー、事故処理 など
参考図書 資料	安全入門、計測、野営章、野営管理章、炊事章、手話章、環境衛生章、スカウトもりもりコミック、新冒険手帳、実践我が家の防災対策(日頃の備え編・いざというときの行動編) NHK 出版、地方自治体防災広報誌、スカウティング誌、防災白書(内閣府)、防災副読本「3. 11を忘れないで(中学校編)」東京都教育委員会

《ゲームのポイント説明》

- **火起こしリレー** (日本連盟スカウトゲーム 少年部より)
発火器で摩擦し火を起したら消火し、次に同じことを繰り返していく。平素からマッチやライターが無くても火を起こせるようにしておく。
- **湯沸し競争** (日本連盟スカウトゲーム 少年部より)
一定の水量を入れた飯ごうが沸騰するまでを競う。スタートの合図で、まきを集め、焚き付けを作り、マッチで火を付け、火を起こし、飯ごうを火に掛け、道具の後片付けまで行う。日頃から手際よく湯沸しができるようにする。
- **目隠しロープ結び** (ターゲットバッジ、マスターバッジ E5 ロープ結び)
スカウティング誌 No. 682 (2011年3月号) 参照
- **海猿の潜水時間**
大きく息を吸い、水中でどの位呼吸を止められるか競う。また、水底の指定した物体を、水上に持ち上げるようにする。

● **即席担架作り**

毛布、衣服、枝木、ロープ、椅子、戸板、シート類、スキー用具など、身近なものを利用して担架を工夫して作り、想像力を養い緊急時に役立たせる。

● **高さは？長さは？（日本連盟スカウトゲーム 少年部より）**

与えられた課題（樹木や建物の高さ、示された距離）を計測できるように訓練し、非常時でも役立たせる。

● **1分時計（日本連盟スカウトゲーム 少年部より）**

時計など他力本願でなく、体で正しく1分を計測できるように訓練し、時間的観念を日常で役立たせる。

● **信号送り（日本連盟スカウトゲーム 少年部より）**

通信文を信号でリレーして行き、最後の人が通信を解読する。情報を正しく伝達することと情報を正しく読み取ることを身につける。

● **事故処理（日本連盟スカウトゲーム 少年部より）**

仮想被害者の状況から適切な処理を競演することで、緊急時の救急に役立たせる。

例：右手首切断による動脈出血の人、倒れた塀の下敷きになって肋骨骨折の人、落とし穴の底に頸骨骨折の人、生き埋めになった人（人形）の足だけ出ている。

隊活動ヒント「ベンチャースカウト隊」

テーマ	減災を図るために如何にあるべきか、そなえよつねに防災活動、これは便利な防災グッズ、地域の防災訓練に参加しよう、郷土の防災マップづくり、被災地を救済しよう
スカウトの訓育	隊や活動チームにおいて 「ちかい」と「おきて」の実践、グループワークによる自主的行動とその責務を担う
活動の目標	7項目を目標とする
災害の分野	震災、火災、津波、風水害、雪害、原子力災害、火山災害、危険物災害 講話 ・ 放射線の被曝と身体に及ぼす悪影響、被爆地での心がまえ ・ 災害の分野別における服装・用具と作業上の注意 討論・フォーラム ・ 防災についての話し合い ・ 「防災」のための主張・意見発表会 ・ 救援活動の体験発表 ・ 私たちの減災（討論） 実践活動 ・ 救援物資のためのバザー開催 ・ 街頭義捐金募金活動 ・ 被災地への救援物資づくり運動 ・ 被災地への救援活動支援 ・ われら地域の防災隊（近隣の災害時の活動）企画・活動体験 ・ 団の各隊合同防災訓練（地震、雪害、風水害など） 調査・研究
プログラム	・ 郷土の災害誌を調べて発表する
内容	・ 世界の災害の分野別に災害誌を調べて発表する ・ 積雪地方の災害と救援活動の心がまえ、冬季における災害の原因 ・ 国内外における大震災時のスカウトの救助活動を調べる ・ ベンチャーの考える「防災マニュアル」の作成 ・ これは便利で役立つ、防災用具の開発 ・ 損害保険と賠償保険の仕組みを調べて発表する ・ 積雪地方の災害と救援活動の心がまえ、冬季における災害の原因 ・ 最新災害に関する情報の収集と活用 救援活動 ・ 被災地への救助活動：炊き出し、家財整理、被災物の解体・撤去・運搬・廃棄等 ・ アマチュア無線活動 ・ インターネット利用の活動 ・ スカウト組織の全国・県別ネットワークを考える ・ 地域の防災活動

見学と実習

- ・ 消防署、日本赤十字社支部、地方公共団体、防災研究所、大学
- ・ 自衛隊：野外生活(サバイバル体験)、災害活動体験
- ・ 海上保安庁：水難救助(水泳、信号法など)、水難対策

ベンチャー章	(1)～(4)の終了
隼章	(2)スカウト技能、(4)技能章
富士章	(4)技能章
プロジェクトの分野	(1)社会・地球環境 (2) 高度な野外活動 (6) 専門分野・得意分野の探求 (7) 奉仕活動
	A スカウト精神：A3 地域社会、A7 地球市民
選択課目	B 健康と発達：B3 水泳 B5 救護
(ターゲットバッジ)	D スカウト技能追跡：D2 計測、D3 通信、D6 気象観測
(マスターバッジ)	E スカウト技能キャンピング：E1～7
	F スカウト技能冒険：F1 食料、F3 サバイバル、F4 フイッシング、F6 ウォーターアドベンチャー
	G 社会生活：G3 近隣奉仕、G6 防災
関連する技能章	野営章、野営管理章、炊事章、救急章、介護章、看護章、安全章、環境衛生章、務章
	消防章、信号章、無線通信章、ラジオ章、水泳章、溺者救助章、漕艇章、沿岸観察章、測候章、登山章など
ソング	そなえよつねに、スカウト達よ、永遠のスカウト、I've Got That B-P Spirit、「ちーやん歌集」から、上を向いて歩こう、若者たち 等
ゲーム	キムスゲーム、記憶力を養うゲーム、キャンプ技能やサバイバル的な技能ゲーム等
参考図書	第8回ぼうさい探検隊マツプコンクール(2012. 2. 8付朝日新聞) 安全入門、救急法
資料	指導者のためのスカウトキャンプ、新冒険手帳、スカウティング・フォア・ボーイズ

《ゲームのポイント説明》

● キムスゲーム

24品の物品を見せた後に、記憶したものの記憶数を競う。16品目以上の正解を目指す。表示の方法としては、固定の平面置き、1本のロープに吊り上げ法、斜面を上から転がす法、ベルトコンベア風に一方から他方へ紐類で移動させる法、物体の名称を叫んで放り上げる法、指定した場所を一人ずつ歩いて記憶させる法等々。ベンチャースカウトに相応しい知的な工夫をする。

● キャンプ技能やサバイバル的な技能のゲーム

ベンチャースカウトとしての知力、能力、体力、経験により、災害活動者個人として、またはグループ活動として役立つ技能をゲーム化(または、シミュレーション化)して、緊急時の災害に役立てる。

日本ボーイスカウト千葉県連盟

〒263-0016

千葉市稲毛区天台6丁目5-2

千葉県青少年女性会館

TEL 043-287-1755

FAX 043-287-1786

URL <http://www.scoutchiba.jp/>